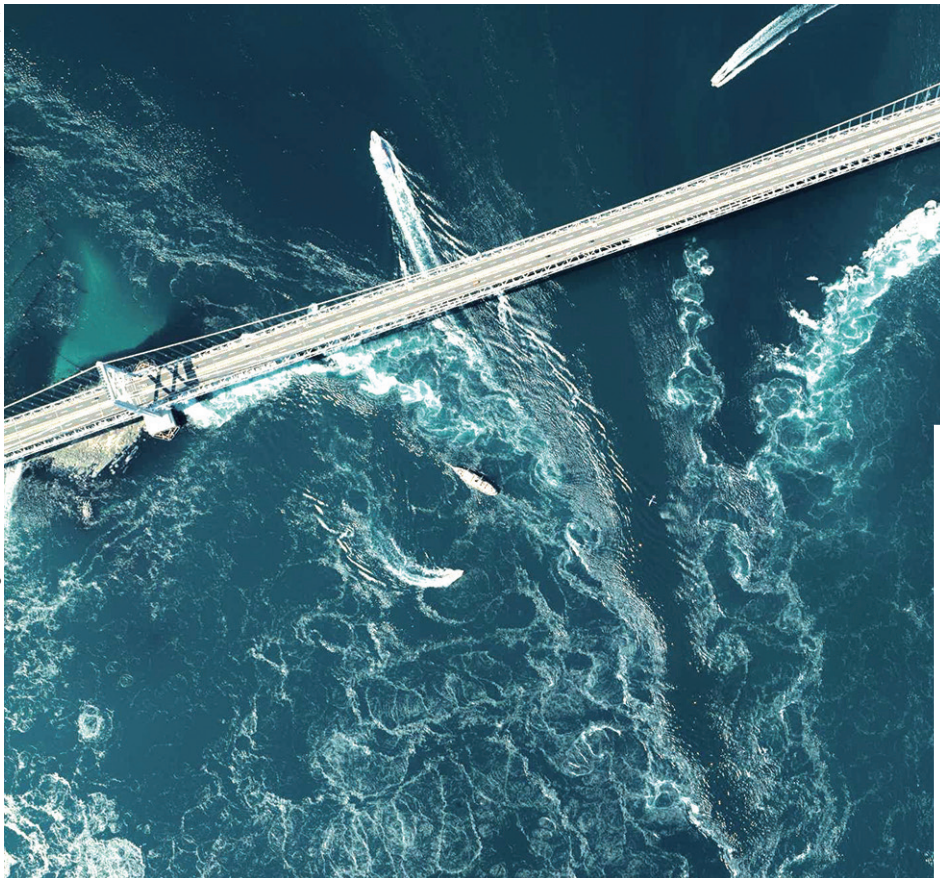
月刊
通巻
640
2026年1月

地図と学ぶ

地図中心

総特集 本州四国連絡橋偏愛マップ



地図中心　640号 目次【総特集 本州四国連絡橋偏愛マップ】

本四架橋構想の歴史　地図に描かれる前の「夢」としての橋	★総務部 広報 CS 課	3
本四架橋構想の歴史　初期構想図や幻のルート案	★企画部 企画課	6
本州四国連絡橋・３ルート概観図	編集室	12
神戸・鳴門ルート／児島・坂出ルート／尾道・今治ルート		14
国内外の橋梁に対する技術支援	★長大橋技術部	20
JB本四高速グループビジョン2035	★経営計画部 経営計画課	24
瀬戸内・四国の「玄関口」　本四ＳＡ・ＰＡの地理的特性と地域連携の取組	★経営計画部 関連事業企画課　JBハイウェイサービス株式会社	26
本四連絡橋３ルート建設に伴う環境への配慮	★企画部 経済調査課	28
２万５千分１地形図で見る架橋の前と後	編集室	28
本四架橋と埋蔵文化財	★総務部 広報 CS 課	35
本四架橋の設計技術	★総務部 広報 CS 課	36
本四架橋と旅客船の関係	★総務部 広報 CS 課	40
強靭化による災害対応力の強化	★保全部	41
地域との連携と期待	★地域連携部	42
瀬戸大橋を渡る鉄道	髙橋　悠	48

★本州四国連絡高速道路（株）

新刊地形図案内　50　／今月新刊の見どころ！・日本地図センター便り　51　／編集後記・次号予告　52

月刊 地図中心

◆「地図中心」は毎月10日発行です◆

1冊　880円（税込）

地図倶楽部

◆紙版と電子版のご購読会員

年間購読１年間 12冊

プレミアム会員

6,600円（税・送料込）

プレミアム会員（シニア）満65歳以上

5,500円（税・送料込）

◆電子版のみのご購読会員（紙版は送付されません）

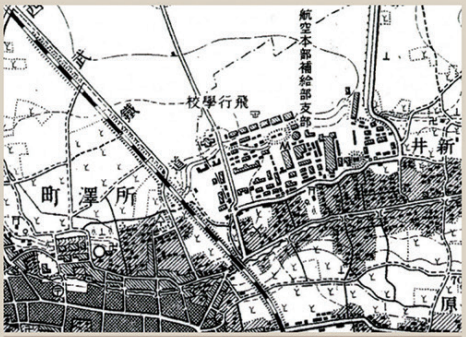
地図倶楽部会員	会費（税込）	入会資格
一般会員	5500円	なし
一般会員（シニア）	4400円	満65歳以上
学生会員	2200円	学生または18歳未満の方

地図倶楽部事務局
map-club@jmc.or.jp　03-3485-5417

《表紙》
上段：「大鳴門橋」の空中写真（国土地理院：2009（平成21）年撮影）と地上写真
下段：与島（香川県坂出市与島町）
〈左〉２万５千分１地形図「本島」昭和49年修正測量（×1.25）／〈中〉「本島」昭和59年修正測量（×1.25）／〈右〉空中写真（国土地理院：1992（平成４）年撮影）

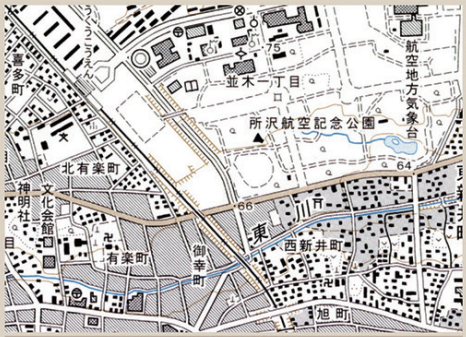
昔見たあの景色が、記憶の中で蘇る
旧版地形図データ 刊行開始！

国土地理院の「旧版地形図」のデータ提供・プリントサービスが、日本地図センターで開始されました。
明治期から現在に至るまでの貴重な地形図のデジタルデータが、容易に入手できるようになりました。
時代の変遷とともに移り変わる街並みや土地の様子を、ぜひご自身の目でお確かめください。



２万５千分１地形図「所澤」大正10年測図昭和４年鉄道補入

２万５千分１地形図「所沢」昭和47年修正測量



２万５千分１地形図「所沢」平成17年更新

提供概要

▼対象地図：２万５千分１地形図（旧版）・５万分１地形図（旧版）
★現在、紙地図で刊行中のものは除く
▼提供形式：デジタルデータ（TIFF形式）ダウンロード
プリントサービス　★データを購入された方が対象
▼ファイル容量：カラー（100MB～500MB程度）
モノクロ（１MB～10MB程度）
▼解 像 度：600dpi又は400dpi
▼価　　格：１図葉610円（税込）
プリント出力880円（税込）
▼詳細はこちら
https://net.jmc.or.jp/mapdata/oldeditionmap.html ▷▷▷

多彩な用途

▼地域の歴史研究・調査資料　▼景観の変化の新旧比較
▼教育・地域学習教材　▼古地図コレクション
▼インテリアやギフト

ご購入方法

日本地図センターのオンラインショップ「地図センターネットショッピング」にて、お買い求めいただけます。

旧版地図データ　検索

お問合せ先

一般財団法人 日本地図センター 情報サービス部
ネットサービス課　メール：net@jmc.or.jp

地図に描かれる前の「夢」としての橋

本州四国連絡高速道路（株）
総務部　広報CS課

架橋構想の提唱

瀬戸内海によって隔てられている本州と四国との間に橋を建設する構想は、明治時代に芽ばえた。まず、明治22（1889）年5月23日、讃岐鉄道株式会社の丸亀－多度津－琴平線の開通祝賀式で、香川県議会議員・大久保諶之丞（じんのじょう）氏は「塩飽諸島ヲ橋台トシテ架橋連絡セシメバ、常ニ風波ノ憂ナク、南来北向東奔西走瞬時ヲ費サズ、ソレ国利民福コレヨリ大ナルハナシ」と挨拶して、列席者たちを驚かせた。

続いて、大正に入ると、大正3（1914）年3月には、徳島県選出の中川虎之助代議士が、第31回帝国議会の予算委員会に「鳴門架橋に関する建議案」を提出した。

もちろん、これらの提唱は技術的な裏付けのないものであったが、地域の悲願として初めて具体的な形をとりはじめたものである。

昭和に入って、この架橋構想をさらに技術的に明確にして実現しようとする人が現れた。昭和15（1940）年、当時の内務省神戸土木出張所長であった原口忠次郎氏（後の神戸市長）は、神戸と四国を結ぶことによって双方の発展を図ろうという構想を固め、同年4月東京で開かれた内務省の全国土木出張所長会議で発表した。同月14日付けの神戸新聞によると、見出しは「鳴門海峡に架橋四国－淡路－本土をむすぶ内海に画期の大工事」というものであった。

鳴門海峡に架橋
四國－淡路－本土をむすぶ
内海に劃期の大工事
日本最初の大橋
瀬戸内海航路改修工事
鳴門海峡橋梁連絡工事

鳴門架橋構想を報じた記事（神戸新聞、昭和15（1940）年4月14日付）

戦前、架橋ではないが、淡路島を経由して本州と四国を結ぶ計画を立てた人がもう一人いた。昭和14（1939）年11月、鉄道大臣になった永田秀次郎（青嵐）氏である。永田氏は北九州地域の石炭を大阪の工場地帯に送るため「①明石・鳴門両海峡の下に複線断面の鉄道トンネルを掘る」「②豊予海峡の下にも佐田岬－佐賀関間の海底トンネルを建設する」という「永田構想」をまとめた。

また、昭和15（1940）年に徳島県選出の紅露昭代議士が衆議院に「鳴門海峡隧道鉄道敷設速成に関する建議案」を提出したり、昭和18（1943）年5月には同県選出の秋田清代議士が「明石・鳴門海峡隧道期成同盟会」を結成するなどの動きもあった。

大久保諶之丞

中川虎之助

総務部　広報CS課

記者発表をはじめ、情報誌の作成やSNS運用など、会社の活動を社内外に情報発信しています。また、お客様満足度向上に係る施策の企画・立案等も行っています。写真は本州四国連絡橋シンボルキャラクター「わたる」です。

本州四国連絡橋・３ルート概観図

編集室

●西瀬戸自動車道

本州側の広島県尾道市と四国側の愛媛県今治市を結ぶ道路で、瀬戸内海に浮かぶ芸予諸島（向島（むかいしま）・因島（いんのしま）・生口島（いくちじま）・大三島・伯方島（はかたじま）・大島）を経由するルートです。

愛称「瀬戸内しまなみ海道」とも呼ばれ、道路だけでなく自転車や歩行者専用道路も整備されており、サイクリングや散策を楽しむ人々に大変人気があります。美しい海と島々の景観を満喫できるルートとして知られています。

●瀬戸中央自動車道

本州側の岡山県倉敷市児島（こじま）と四国側の香川県坂出（さかいで）市を結ぶ道路で、瀬戸内海に点在する塩飽諸島（櫃石島（ひついしじま）・与島・岩黒島など）を経由して通行します。

この区間の橋梁群全体を総称して「瀬戸大橋」と呼ばれ、道路と鉄道（JR 瀬戸大橋線）が併用される珍しい二層構造の橋として知られています。美しい島々と海を望める景観の良さから、交通路としてだけでなく観光地としても高い人気があります。

本図は、地理院地図（2025年11月取得）に加筆して作成しました。

●神戸淡路鳴門自動車道

本州側の兵庫県神戸市と四国側の徳島県鳴門市を、瀬戸内海に浮かぶ淡路島を経由して結ぶ高速道路です。

ルート上には、世界最長の吊橋（竣工時）として知られる明石海峡大橋や、鳴門海峡に架かる大鳴門橋などの壮大な橋梁が並び、交通の大動脈として重要なだけでなく、海や島々の景観を一望できる魅力的なドライブコースとしても人気があります。

高速道路ナンバリング　E76　E30　E28

国道番号　317　30　28

● インターチェンジ　名称：IC記号を省略
SIC：スマートインターチェンジ

編集後記

私事で恐縮ですが、高校生のころに建設中の因島大橋を見学したことがあります。1983（昭和58）年の夏休みだったので、今にして思えば共用（同年12月4日）間近の時期です。

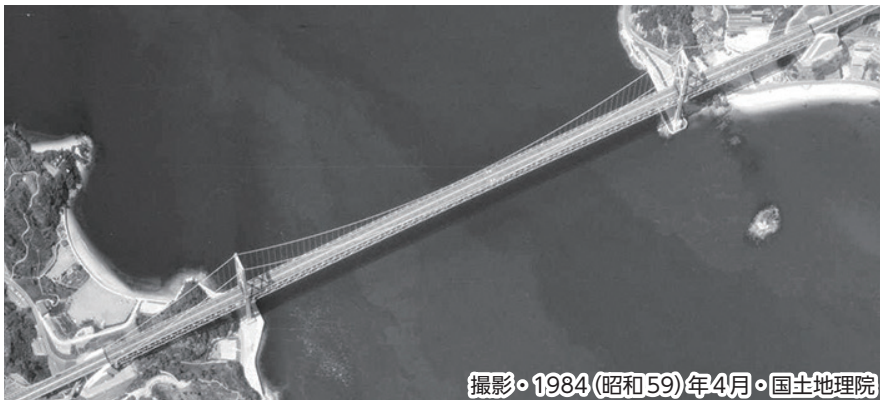
ヘルメットを装着してエレベーターで急上昇。工事現場に潜入している非日常感。ガチャンと止まったエレベーターの扉が開くと、そこは主塔のほぼ最高部。吹きっさらしのテラスから、瀬戸内海が一望。足元の布刈（めかり）瀬戸を航行する船が、ミニチュアのように見えた記憶が鮮明に残っています。

自分の目の高さを140cmとして、因島大橋の主塔の高さは135.85mなので、主塔の上からはおおよそ100分1の縮尺。島々を結ぶ渡船などは全長30mほどなので、主塔の上からは30cmくらいに見えていた計算に。若き日の記憶が、あながち間違っていなかったことに、ホッとしています…

（編集長・小林政能）

因島大橋

撮影・1981（昭和56）年10月・国土地理院


撮影・1984（昭和59）年4月・国土地理院

次号予告　2026年2月 通巻641号　毎月10日発行

地図と学ぶ月刊
地図中心　総特集　山陰の小京都・津和野地図録

島根県西部の山あいに佇む津和野町は、山陰屈指の歴史景観を遺す城下町です。山陰の小京都と呼ばれる風情ある街並みだけでなく、伊能忠敬の測量隊が歩いた道、森鷗外のゆかりの地、さらには青野山の火山地形など、多彩な文化と自然環境が人々を魅了します。地図の目線で「津和野」の姿を読み解きます。

バックナンバーのご案内　地図中心　検索

「地図倶楽部」へのご入会をお待ちしています！　03-3485-5417（事務局）

地図中心
2026－1　通巻640号
発行　2026年1月10日
発行所　一般財団法人日本地図センター
〒153-8522
東京都目黒区青葉台4-9-6
電話　03-3485-8125
FAX　03-3485-5593
（月刊「地図中心」編集室）
メール　chushin@jmc.or.jp
URL　https://www.jmc.or.jp

©一般財団法人日本地図センター

定価　880円（税込）
印刷所　昭栄印刷株式会社

地図と学ぶ月刊誌
地図中心

本誌の一部あるいは全部を無断で複写・複製・転載することは、法律で認められた場合を除き、禁じられています。

雑誌 86689-01
4912866890168
00800

地図中心 2026-1 通巻640号 令和8年1月10日発行（毎月1回10日発行）
発行 一般財団法人日本地図センター 定価880円（税込）